

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成26年4月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00  
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(税込・送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

## 「診療情報管理と外国語」

高橋 長裕

千葉県青葉看護専門学校 校長  
東京会場 基礎課程(医学用語) 講師

四月、新しい年度が始まり、新しい職場への異動、新しい学校への入学など、新たな環境での生活を始められた方も多いかと思いますが、皆さん情熱に燃えて頑張っておられることと存じます。

私はこの通信教育での「医学用語」を担当しておりますが、医学・医療の世界には様々な(一部訳の分からない)外国語が氾濫しています。もともと我が国の近代医学は、幕末にオランダ経由のいわゆる蘭学に始まり、明治になってからはドイツ医学、その後アメリカ医学を輸入して成り立っており、戦前はドイツ語、戦後は主として英語で医学教育が行われたという経路から、ある程度仕方のない面はあります。現在では日本語のみでの医学教育は可能ですが、色々な医学・医療用語に未だに多くの外国語が使用されるには幾つかの理由があります。一つには、日本語にすると長くて難しくなる、という点でしょう。例えば、「持続的自己管理腹膜灌流」といちいち言っていると大変なので、continuous ambulatory peritoneal dialysisの頭文字をとってCAPDと言ったりします。

もう一つの大きな要因は、もともと外国語と併せて読んだ方が、疾病の概念など、言葉の意味がより正確に理解できるという点です。例えば、最近大きな話題になった「STAP細胞」というのがあります。これはStimulus-triggered Acquisition of Pluripotencyの頭文字をとったもので、「刺激惹起性多能性獲得」というのが正確な日本語です。勿論これでは長いし、一般人には理解困難なのということなのでしょうが、もっぱら「万能細胞」という言葉で報道されたりしています。このPluripotencyという単語は、pluri-という接頭語とpotencyという語根からできているもので、pluri-は「多数・複数」を意味します。英語の辞書で複数形を示すpl.はpluralの略です。Potencyは「力・(潜在的)能力」を意味する言葉で、これに否定を表すim-という接頭語がついたimpotency(またはimpotence)は「無力・無能」の意味で、俗にいう「イ〇ボ」のもとの言葉です。STAP細胞はほとんどあらゆる種類の細胞に分化する可能性を持っているということですが、敢えてpluripotency(多能性)という名前をつけてあるのは、厳密には必ずしも「万能」ではない可能性を示唆したものかと思われます。万能を表す言葉にはomnipotenceというのがあり、これは「全知全能」といった場合に使われます。

診療情報管理は単にICDコーディングに留まらず、広く色々な情報を扱います。皆さん、できるだけ多くの事に興味を持って、広い知識を取り入れて下さい。分かり切ったような言葉も、辞書を引くと結構色々なことが書いてあって面白いものです。

